



水辺のひろば

No.5

2008年 3月 1日発行



(宮本トミエさん撮影:昭和28年4月19日/2007年「私の加治川写真展」応募作品より)

自然観察シリーズ 池沼探検隊⑤ 小出の「大堤」

平成14年度秋の池沼調査から、小出地内の「大堤」を紹介いたします。
この大堤は、明治初期築造の農業用水で、昭和41年度に災害のため一部改修がされています。

堤高さ3m、堤長さ67m、満水面積として台帳では0.2ヘクタールとあります。小出集落で管理している用水の堤です。水深は1m程度で、水はきれいでCOD 1.0、PH6の水質でした。

一時間程度調査しましたが、水生魚類は採取できませんでした。取れた生物としてはツチガエルのオタマジャクシが多数確認できました。その他にはイナゴと



小出大堤

マツモムシ多数とイトトンボのヤゴやカナヘビを見つけることが出来ました。
堤周辺や池内には植生が豊富で、ツルリンドウ、リンドウ、ヨシ、ヒメシロネ、ヤブコウジ、コバギボウシ、アリノトウグサ、ムラサキシキブが繁茂していました。ここにも葉きょうが落ちていたので秋季には水鳥が来ていると思われます。

おいでください! イベントガイド



川と酒と歌のつどい

「まちうら散策」の第4弾、新発田川に咲くアヤメの花を見ながら、登録有形文化財の石泉荘、金升酒造庭園を見学。その後は金升酒造のお座敷で、おいしいお酒でも飲みながら、懐かしいフォークソングを歌って楽しむ集いです。

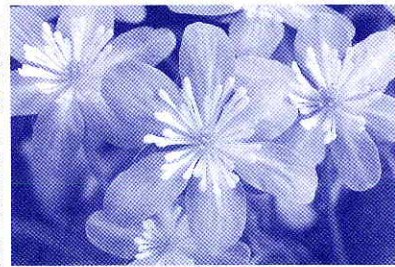
と き：5月25日(日)午後3時～
集 合：午後3時までに寺町たまり駅へ。
参加対象：どなたでも可。先着30人
参加費：一人3,000円(飲み物代ほか)
申し込み：4月8日から受け付け。
共 催：金升酒造、新発田 DE フォーク

(お申し込み・お問い合わせ)
NPO法人 加治川ネット21事務局
電話 (0254)31-4111 FAX (0254)31-4088
E-mail kjn21@ml.shibata.ne.jp

しばたの自然Ⅱ 雪割草

雪割草の和名は、「オオミスミソウ」と言い、葉の形が三つの角をもち、大型になる特徴から名付けられました。県外にも分布していますが、新潟県が量も質もナンバーワンです。県内の主な自生地は佐渡や弥彦山ですが、新発田にも月岡温泉の東側の山や赤谷などにわずかに生えています。

栽培者も多く、その魅力は①花色が多様で、白、ピンク、赤、紫などの他に、水玉のような模様が入ったものまであること、②花の形に変異が多く、一般的な花は、花びら(植物学上はがく片)、オシベ、メシベから出来ていますが、オシベが花びらになったもの、オシベとメシベが両方花 オシベが花びらになった「目溜びら」になったものなどがあること、③大きくならないので、多くの鉢を栽培できること、④寒さに強いこと、⑤1年中葉が青々していること、⑥種をまいて増やしたり新しい花を作ったりできることなどです。早春、五十公野公園(升湯の森林館裏山)に有志の植えたものが、花を咲かせています。



(新発田野生蘭談話会事務局 松本則行)

学びの扉

環境学習「水辺の生き物」

『竹俣小学校』

昨年12月17日、竹俣小学校4年生16名を対象に、当会が講師となって「水辺の生き物」の学習を行いました。

竹俣小学校区は、清流姫田川が流れる素晴らしい自然に囲まれています。同校では平成14年から当会と連携して環境学習に取り組み、地域全体を対象とした「環境講座」を開催したほか、翌15年には当会主催のC.W.ニール講演会で、地域の環境を守る取り組みについて発表しました。また環境学習が評価され、環境省、生態系保護協会の授業視察も受けています。

昨年7月には屋外での学習として、北陸農政局主催の「田んぼの生き物調査」を行いました。この調査で、イワナやドジョウ、トノサマガエルなど20種ほどの生き物が確認されています。



応援してください NPO法人 加治川ネット21 会員募集

年会費:個人 2,000円/法人 10,000円
事務所所在地:新発田市小戸886-1
電話:(0254)31-4111 FAX:(0254)31-4088
Mail: kjn21@ml.shibata.ne.jp
ホームページアドレス:
http://www.inet-shibata.or.jp/~kjn21/
会費振込先:
郵便局 00500-5-35812

《編集後記》

市内で開催された「想い出写真展」を見ました。これは新発田市出身の写真家大竹静市郎氏の作品と写真に寄せる思いが掲載された新聞記事とその作品を中心とした展示会で、そこには昭和三十年代の新発田の路地裏、子どもたちの服装や遊び、駅前通りなど、今では消えてしまった「しばたの文化」がありました。
「あれから50年、再訪。杉の巨木はすでになく、(中略)ここまで変わるのか、こんなにも変わるのか、こんな風景は見るんじやなかった、そんな思いが突き上げました。」(街道をゆく)という駅裏の写真につけられた大竹さんのコメントの一部です。今の子どもたちも、将来ふるさとをこんなふうを感じるのでしょうか。
四月は桜の季節。市内には桜の名所がたくさんあります。新発田城址公園、升湯、職業能力短大、それから加治川頭首工付近や紫雲寺記念公園もいいですね。夜にはライトアップするところもあります。さあ、今年はどこで花見をしましょうか。

加治川ネット21 10周年記念事業

市内小学校の子どもたちが 環境学習の成果を発表

加治川ネット21は、昨年、設立10周年を迎えました。当会は、総合学習支援を活動の一つとしています。しかし、市内で環境学習に取り組む学校は多いものの発表する機会が少ないことから、設立10周年記念事業の一つとして、『小学校環境学習パネル展＆発表会』を開催しました。

平成19年11月18日、会場の新発田市生涯学習センターロビーには、市内22の小学校から寄せられた環境学習の紹介パネルと、当会10年の歩みパネルが展示されました。

一方、学習発表会会場の講堂には、約200人の聴衆と、来賓の大滝昇新発田市教育長、宮坂啓象東工大名誉教授、藤岡達也上越教育大学院教授などが子供たちの発表を待ちます。いよいよ5校の学習発表が始まりました。



22校のパネルがズラリ

米倉小学校は、「地域の生き物があぶない」をテーマに発表。生き物調査などを通じて、地域に生息する生き物の多様性に気付き、現在進められているほ場整備事業への関心を高め、ほ場整備事業と生物との共生に向けて行政や土地改良区などに手紙を書いたなどの思いを発表しました。

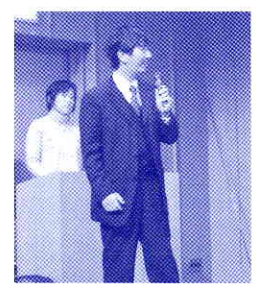
荒橋小学校は、「みんなでイバラトミヨを守ろう」がテーマ。新潟県レッドデータブックに絶滅したと記載されていたイバラトミヨが、学区内に生息していたことの驚き、学習が地域環境の見直しに繋がっていった過程、太倉久保地区(旧豊浦町)のほ場整備事業で、イバラトミヨなどの動植物を保全するために県が行った工法を学習したことなどを発表しました。また地域環境の保全に向けてみんなで作成した看板なども披露しました。



発表は工夫がいっぱい

中川小学校のテーマは「環境調査隊」私たちの加治川から。学校のそばを流れる加治川はともきれいなのに、土手のあちこちにゴミが落ちていたことから、環境調査隊を結成したこと、加治川の上・中・下流の水質を調べ、川を汚さないための工夫を学んだこと、地域の方々からのインタビューや図鑑などを渡し、加治川の生き物を知ったこと、ゴミを減らすために、クリーン作戦をしたりポスターや手作り紙芝居を作ったりして、加治川の環境保全を呼びかけたことなどを発表しました。

藤塚小学校は、市内で唯一、海に近い学校です。その環境を生かし、テーマも「海を教室に地域を学び舎として」。同校では、サケを卵から育てて加治川に放流しました。その「サケの命に学ぶ」学習を通して、北の海を目指すサケから、たくましく生きることや、サケを育てながら、サケが育つ川や海の環境を考えたこと、地域を学



藤岡教授から、一校一校に温かいコメントが

ければいけないと言いますけれども、優しさの根源というのは、自然とのふれあいの中にあるのです。声のないカエルやイトヨを慈しむ心を、こういうことを通して学んでいます。

また、世の中には「ゴミを捨てるな」といつても捨てる人はなくならないですね。幾らやってもなくならないなら、それなら私も捨てるわ」という生き方もあるし、また、「いつまでたっても人が捨てるんだ」というのであれば、私は「拾うんだ」という生き方もあります。

ご意見、投稿募集中
加治川ネット21では、皆さんからのご意見、情報、投稿を募集中です。こんなイベントをしてほしいといったものから、環境豆知識、団体紹介、宝物みくつけた、しばたの自然に取り上げてほしい情報はもちろん、記事そのものも大歓迎です。事務局(最終ページ参照)までお寄せください。



宮坂啓象東工大名誉教授による総評

団体紹介 Vol.5

地域を愛する…… 「加治川堤の桜並木復元を」 加治川を愛する会

新発田出身の作詞家たかたかし氏が、作詞家生活30周年を記念して、沢山の歌手、作曲家の賛同を得て、加治川堤に桜植樹をしたのが、平成10年。この時誕生したのが「加治川を愛する会」です。

今年4月19日(土)には、10周年記念「加治川桜堤クリーン&ウォーク」を行います。四つの小学校の子どもたちを中心に、一般市民の参加で約500人のイベントを目指します。同日、城址公園では、豪華な歌謡ステージを予定しています。ご期待ください。

【お問い合わせ】
TEL・FAX 0254-22-6715
(加治川を愛する会事務局 木村)

環境豆知識 レッドデータブック

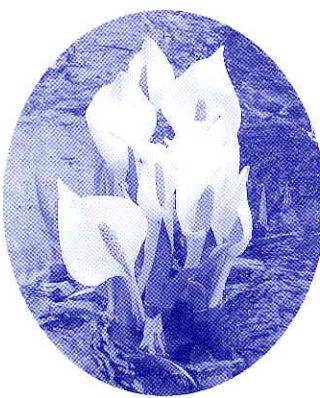
1989年に(財)日本自然保護協会と(財)世界自然保護基金日本委員が「わが国における保護上重要な植物種の現状」を、次いで1991年、旧環境庁が「日本の絶滅のおそれのある野生生物」を発刊。これがわが国における最初の国レベルのレッドデータブックです。新潟県のもは2001年3月に発刊されています。絶滅の恐れのある動植物の種は、次のように選定分類されています。

絶滅	県内で絶滅したと考えられる種(ニホンカワウソ、ゼニタナゴ他7種)
野生絶滅	飼育栽培のもののみで存続している種(トキ他2種)
絶滅危惧Ⅰ類	絶滅の危機に瀕している種(イヌワシ、イバラトミヨ、タガメ他126種)
絶滅危惧Ⅱ類	絶滅の危機が増大している種(トノサマガエル、ホトケドジョウ他310種)
準絶滅危惧	存続基盤が脆弱な種(動植物計241種)
地域固有種	希少な種、分布が局限・孤立している種(動植物計268種)

出典:レッドデータブックにいがた

宝物

みくつけた 滝沢の水芭蕉



春から初夏にかけて咲く水芭蕉はサトイモ科の多年草で、湿地に自生します。花は真ん中の円柱状のもので、葉の間から出ていて白く花のように見えるものは、葉が変化したものだそうです。

♪夏が来れば思い出す
はるかな尾瀬 遠い空……
水芭蕉の花が咲いている♪

音楽の教科書などに登場する「夏の思い出」の一節です。この歌のせいか、尾瀬の水芭蕉は有名ですが、そんなに遠くまで行かなくても、新発田市内にも水芭蕉のきれいなところがありました。

その一つが、「滝沢」の水芭蕉群落です。旧豊浦町の月岡温泉から少し入った阿賀野市と新発田市の境界近くにありま

この水芭蕉は低地に咲き、新発田市の指定天然記念物にもなっています。見頃は4月から5月上旬にかけてですが、その時期を過ぎて大きくなった水芭蕉の葉も、なかなか見ごたえがあります。駐車場はそれほど広くありません。また車を降りて少し歩かなければなりません。遊歩道が整備されており、散策して

て気持ちのいいところです。地域の方々には守られ、今年も花の時期が近づいています。緑と鳥の声に包まれた「水芭蕉」は、隠れた観賞スポットです。